

武蔵野市の学校・家庭・地域の協働体制の未来像

今、学校教育には、社会状況を視野に入れ、多様なつながりを重視し、教育課程を介して「よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創る」という目標を社会と共有することが求められています。

そうした「**社会に開かれた教育課程**」の実現に向けて、学校・家庭・地域が連携を深めて教育活動を豊かにしていくことが必要です。

新しい時代を生きる子どもの豊かな学び・育ちを支える「**開かれた学校づくり協議会**」の機能を充実して、学校・家庭・地域が互いのベクトルを合わせる場となるよう発展を図っていきます。

～期待する効果～

家庭・地域にとって

- ★当事者意識の醸成と主体性
- ★学校や子どもたちの変化を実感
- ★安定した地域環境の中で子どもが育つ安心感

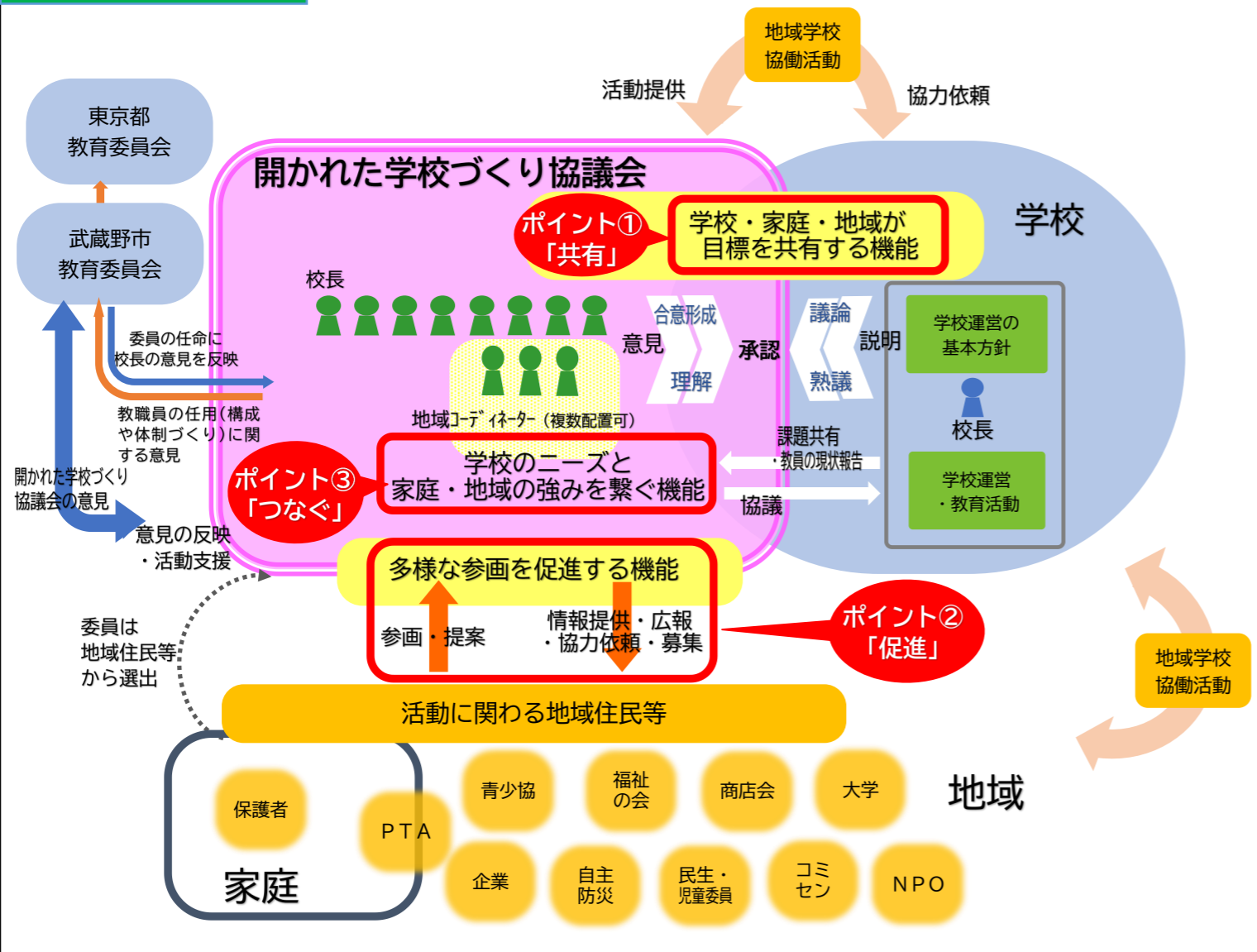
学校にとって

- ★必要に応じた家庭や地域との協働
- ★教員の多忙化解消

協議会にとって

- ★達成感や信頼関係の構築と活動の楽しさ

イメージ



ポイント① 「共有」

学校・家庭・地域が目標を共有し、ベクトルを合わせて学校運営を協働する

- ◇合意形成を図り、学校運営の基本方針を承認する
- ◇教員の任用（学校の特色にあった人材像）に対する意見を述べる
- ◇学校運営や教育活動の課題を共有し、協議を重ねる
- ◇協議会の活動はPDCAの機能により継続的に改善を図る
- ◇多様な委員を選定し、協議会の開催回数を8回程度まで増やす

ポイント② 「促進」

地域住民等との多様な参画をマネジメントし、地域学校協働活動を促進する

- ◇積極的に広報活動を行い、地域住民等の参画を促進する
- ◇地域の協力者を結ぶオンラインツールを活用する
- ◇誰もが気軽に、得意分野で1回だけでも参加できる仕組みを整える

ポイント③ 「つなぐ」

学校のニーズと家庭・地域の強みを効果的につなぐ

- ◇地域コーディネーターの複数配置を可能とする
- ◇層の厚いチーム体制で地域学校協働活動を支える
- ◇ネットワークが共有され、学校のニーズと家庭・地域の強みが幅広くつながる